
作者 & 友人...そして例のキャラ達の紹介

エンディング・E D

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

作者&友人：そして例のキャラ達の紹介

【Nコード】

N9706X

【作者名】

エンディング・ED

【あらすじ】

この小説は 作者が出す予定のキャラ達と…作者の友人達の紹介文です（笑）
インタビューの様な形式で行きたいと思います！

1 作者とその友人（早速グダグダだ〜）（前書き）

エン「こんにちは、作者です！ここはただの自己紹介です〜」

OP「読み流しても良いって言う人は、どうぞ！」

エン「…次のは暫くかけないかも〜」

作者以外全員「オイ！！！」

1・作者とその友人（早速グダグダだ〜）

ここは とある洞窟の中にある、居住スペース。

そこにいる人物こそ、作者である。

マリオ「え〜…早速、突撃インタビューします（まったくよ…何で俺が…）」

マリオ「…で、あんたが作者だよな？」

エン「その通りですよ 私はエンディング！」

（ここら辺はほぼマリオの視点です〜）見た目は普通のヤツ。黒すぎる茶髪で、目は普通。何故か俺達がかぶってる帽子と似たのかぶってるんだよな；

模様はEが傾いた様な感じで…色は青だ。

マリオ「一つ聞きたかったんだが…その帽子はどうしたんだ？」

エン「作っただですよ」

??「手先は器用なんだよな」

マリオ「誰だよ!？」

OP「俺はOP!〜こいつ（エンディング）の友人だよ」

…こいつも同じ様な帽子がかぶってやがる…。色はオレンジで…模様

は…Oだな。

マリオ「…仲良いんだな…」

OP&エン「…もっちゃん」

マリオ「じゃあ最後に…それぞれをポケモンに例えてみてくれ。」

OP「エンディングは喋り方が正体現す前のヨノワールだよなww」

エン「OPは…性格からして…ギャロップ（ ）でしよつかねえ…。」

マリオ「…成る程な…え〜と…そろそろ次に行くんだけど…」

OP&エン「…じゃあ一緒に行こう!」

マリオ「どうやってだよ…」

OP&エン「…これ（スクーター）で!」

…現実では運転できません；

マリオ「…じゃ、じゃあ出発な…」

OP&エン「…ヒアウィゴー」

そして…グダグダした自己紹介の旅が始まった…；；；

次回：有名な兄弟の住む王国へ！！

1・作者とその友人（早速グダグダだ〜；）（後書き）

マリオ「なあ…次ってまさか…」

エン「それは言わない事！！！」

OP「それでは、次回をお楽しみに」

1・5・王国へと向かう道中の悲劇（前書き）

エン「前回の続き書くぞー！！！！」

マリオ「何かやる気マンマンだな」

OP「そりゃあ…暇だからな。」

マリオ「オイ！！」

1・5・王国へと向かう道中の悲劇

…前回から数分しか経ってないが…マリオはOPにマイクを渡した
(笑)

マリオ「何でなんだ？」

OP「そりゃ、次にマリオの紹介とかがあるからな。」

マリオ「…やっぱ次って…」

エン「言うなよ!？」

マリオ&OP「良いから前向いて運転しろよ!!!」

マリオ「やっぱ俺…あつちに乗らなくて良かったわ…」

そう、それは数分前

エン「出発準備OK」

OP「マリオ!俺の後ろに乗れよ」

マリオ「何で？」

OP「………地獄を見たくないなら乗れ…」

マリオ「え…あ…お、おう…」

そして現在

マリオ「にしても知らなかったぜ…。まさかここまで…」

ぼやくマリオの視線の先にいるのはエンディング。周りの土管を危なっかしく避けている。

OP「あ、気をつけろ！！ジャンプ台あるから！！！！」

叫んだが遅かった様だ。エンディングは見事に後輪を土管に引っ掛けている。

エン「え、ちょ、あ……………」

エンディングは土管に入ってしまった。二人は顔を見合わせ、出口の土管付近で待機していた。

エン「コイン大量に拾ったぞ」

と、エンディングは出てきた。何故かボム兵を連れているのには触れず、三人はそこを後にした。

そして やつと次の場所へと辿りついた。

次回…やっと平穏なインタビューが… }

1・5・王国へと向かう道中の悲劇（後書き）

マリオ「てか何で一回もブレーキ使わないんだよ!!!!」

エン「何か嫌なんですよ!?!」

OP「何だろうこのグダグダ感（笑）」

???「…早く出して欲しいなあ…。」

2・王国に住むキャラ達！！！（前書き）

エン「今日は張り切って二つ目！！やっとアイツが……！！」

マリオ「誰だ？？？」

エン「……………良く知ってる筈ですがねえ……。」

2・王国に住むキャラ達!!!

ドタバタとした移動からさらに少し。三人が着いたのは……

マリオ「やつぱり、キノコ王国じゃねえか!!」

そう、我等がスーパー・マリオの出身である、キノコ王国である。早速、キノピオ達が話し掛けてきた。

キノ1「あ、マリオさん!!おひさしぶりです!」

キノ2「お元気でしたか?」

マリオ「おう!!お前等も元気そうだな。」

三人が話している間に、エンディングとOPは目的の場所へと向かった。

〽場所：マリオの家〽

OP「…という訳で、マリオの家の前へと来ました。」

エン「彼はいるのかなあ?????」

OP「ノックしよう（トントン）」

……。

エン「…留守?」

OP「よし、入ろう。」

エン「いやいやいや!!それは流石に!!」

OP「クツパだって何回も不法侵入してんじゃない?俺等だって大丈夫だろ」

そして、二人は不法:ゴホン、アポ無し潜入をした。

エン「ルイ君いるかな?」

OP「いたいた 寝てるけど。」

ルイ君こと、ルイージは:ソファーでお昼ね中の様だ。可哀想だが、起こさなければ;

エン「ルイくん、起きろー。」

ルイ「ん...??誰!??」

OP「俺等だよ ほら自己紹介」

ルイ「え...あ...。僕はルイージです...。」

エン「因みに彼のお兄さんはマリオです」

OP「次は:ここの城まで案内してくれ」

ルイ「何で僕に:??」

エン「君のお兄さんとはぐれたんですよ（笑）」

まあ実際には置いて来ただけなのだが；

OP「さあ出発だー」

エン＆ルイ「ちょ、無理やり引つ張らないでよ！！！！」

二人は見事なハモリを見せながら、OPに引つ張られていった。

（場所：キノコ城（あれ、ピーチ城だっけ；））

OP「おお…広い！！！」

ルイ「多分ロビーだけで…僕等の家が十個は入ると思うな；」

それは流石に無いだろう；

エン「あれ？あそこの茶色いキノコ…キノじいじゃない？」

三人で近寄ってみた。キノじいだった；

キノ「おお、何をしとるのかね？」

OP＆エン「インタビューの様なモノですねえ…。」

…彼はキノじい。恐らく最高齢ではないだろうか；ピーチ姫のじいやさんだ。

ルイ「あの…ピーチ姫は？」

キノ「謁見の間じゃろうから…行ってみると良い。」

ルイ&OP&エン「ハハイ！！！！」

三人はキノじいと別れて、謁見の間へと向かった。

〈場所：謁見の間（多分、ゲーム中には無いと思われます…）〉

三人は、謁見の間でくつろいでいる女性を発見した。彼女こそ、プリンセス・ピーチである。

ピーチ「あら…何か用かしら？」

OP「色々と自己紹介してもらってます！ピーチ姫もどうぞ！」

ピーチ「私はピーチ。キノコ王国の未来をいつも祈ってます…。」

そこへ…ガシャッ！！…と音がして、ガラスの破片が散った。

エン「いったー！？刺さった！！」

ピーチ「何事ですか！！？」

??「ガッハッハッハ！！ここにいたのか！！」

インタビュー最中に入ってきた影…それは、クッパ！！クッパは姫を搔っ攫っていった！！！！

ルイ「あ……姫……!!」

OP「何でいつも波乱の展開に!？」

エン「どつちでも良いから追おう!!!（破片メツチャ痛い……覚え
てるクッパ）」

そして、三人はクッパクラウンの影を追いかけた。

次回……あの城への潜入……

2・王国に住むキャラ達!!! (後書き)

マリオ「なあ…途中から俺、空気になってないか？」

エン「き、気のせいでしょう??？」

ボム「……。」

OP「いやいや喋れよ…」ED化しなきゃ良いけどな…。」

2・5・移動中の悲劇…再び（前書き）

エン「……………（クッパめ…）」。

OP「……………；（き、気まずい…）」

ルイ「で、では始まり…；…；…；」

エン「本当は10月31日に投稿したかったなあ…。」

2・5・移動中の悲劇…再び

前回、ピーチを攫われてしまった！ さあ、追うぞ！！

OP「…って言われても…先にヨッシーん所行くか？」

ルイ「僕は良いけど…」

そこは否定しろよ、お前…

エン「かまわないよ？」

OP「んじゃ、行こうぜ」

三人は（前回と同じ様に）スクーターに乗っている。マリオは置いてきた；

（場所：ヨッシーの家（緑のヨッシー））

ここは…良くマリオに協力している、緑ヨッシーの家だ。

ルイ「ヨッシー、いるかい??」

ノックしてから数秒後。ドアが開いて、ヨッシーが顔を出した。

ヨッシ「何でしょうか…??」

OP「自己紹介してくださいー!!」

ヨッシ「え！？あの、私はヨッシーです。好きなものは…食べ物全般ですね。」

相変わらずの食欲のようすなあ…。

ルイ「そうだ、ヨッシー大変なんだ！またピーチ姫が…」

ヨッシ「またですか；まあ行きましょう！」

こうしてヨッシーが加わり、四人（？）になった。ルイージはヨッシーに乗った。

ヨッシ「こっちがクッパ城です！！！」

ヨッシーの先導に従い、四人は家を後にした。

↓場所：クッパ城へと続く道↓

ヨッシーの先導で、ここまで来たのは良かった。だが、ここからが問題だった。

ヨッシ「まず…直線に行くと、敵が多いんですが城に近いです。」

ま、良くありますなあ。

ヨッシ「そして…曲がると城に遠いんですが…罠が多いです。」

そうそう、ありきたり…な訳ねえじゃん！！何で罠が多いんだ！？三人は疑問にも思っただけが；

エン「じゃあ直線に行けば良いわけだな」

そういうとエンディングは…スクーター放置で歩き始めた。…早速、ノコノコと揉めているが。

エン「通してください！」

ノコ「何でだ？」

エン「クツパ大王にインタビューです。」

ノコ「ならいい。」

おい。もうちつと警戒しろよ。案の定、通れたのはエンディングー人だったけど。

OP「がんばれよー（笑）」

ルイ「気を付けてねー!!」

ヨッシ「ドンマイです」。

さまざまな声を聞きつつ、エンディングは進んでいった。

↓場所：クツパ城ロビー↓

クツパ城に入ったエンディングは、ふと飾りを見た。カボチャや蝙蝠…。まさか？

クリ「何の御用で？」

受付（！？）にいたクリボーが聞いてきた。

エン「クツパ大王にインタビュー形式で自己紹介を！」

クリ「それなら、もう直ぐ終わるので、そちらに掛けていて下さい」。

言われて腰掛けた。何故ピーチを攫ったのか…それは、次回…！

…次回…攫った理由と空気になっていた男…

2・5・移動中の悲劇：再び（後書き）

エン「今回は長く書いたぞ」

OP「確かにな」

ルイ「一人で行くのは凄いなあ」

マリオ「俺は出れるのだろうか」

エン「それは次回」

3・攫った理由と空気の男（前書き）

マリオ「何だよ上の題名（怒）」

エン「さあねえ。」

ルイ「兄さんやめなよ・エンさんも。」

OP「本当は10月31日に投稿するはずでしたー！！」（エンさん
って誰！？）」

3・攫った理由と空気の男

前回、クツパに待たされたエンディング…。のん気にパタパタと喋っていた…。

エン「へえ…なら、ミドパタの上が赤パタで、その上が青パタ…。」

パタ「そういう事です。私は後少しで赤なんですよ…。」

エン「頑張ってくださいね…。」

そのお陰で見事にクツパに気づかなかった訳だが。

クツパ「我輩を待っているのは貴様か？」

エン「ん？」

パタ「クツパ様!!」

クツパ「何か聞きたい事があるそうだが？」

エンディングは振り向き…少し停止した。服が違っ!?

エン「…その服は一体…??？」

クツパ「うむ、これか？これはハロウィンとか言うヤツの衣装だが…。」

??「僕がしたいっていったらしてくれただ!」

突然、クツパに似た声がした。その声は丁度クツパの後ろ辺りからした。

??「僕はクツパ」r・!宜しくね!」

エン「あ、ハイ。」

」r・とクツパの衣装は…狼男風の衣装だ。ピーチも出てきた。衣装の見立てだったのか?

ピーチ「あら、お久しぶりね。そうだ、あなたも仮装しない?」

そういうピーチの衣装は魔女風だ。まあ、エンディングは返事の前に引きずられて行ったが。

エン「あゝれゝ。」

それをとめないクツパもあれだが(笑)

ゝその頃のOP達ゝ

彼等は…とても暇そうにしていた。

ルイ「遅いなあ…。」

OP「まあ大丈夫だろ。アイツには切り札があるしな。」

ヨッシ「切り札とは?」

OP「何でもねえ!!」

ヨッシ&ルイ「????」

そしてクツパ達の方

エンディングが再び引きずられて来た。さっきとは衣装が違つ。

ピーチ「やっぱり彼、ドラキュラが似合うわね（笑）」

ピーチの言葉通り、エンディングはドラキュラの格好をさせられている。

エン「……気を取り直して……クツパ！自己紹介を!!」

クツパ「む、我輩か？我輩はクツパ!!カメー族の長である。」

エン「Jr.もどうぞ」

Jr.「僕も良いの?……僕はクツパJr.!!コクツパ七人集の中で一番偉いんだぞー!」

まあ、そうかどうかは良く分からないのだが。

クツパ「さて……子分達!今日は敵味方関係なく、楽しんでこい!!」

子分「……オー!!!」「」「」

皆散り散りになってどっか行きました（笑）

クツパ「さて…我輩達も行くか…。」

Jr.「二人も一緒にいこーよ。」

エン「…お言葉に甘えますか…??」

ピーチ「そうしましょ。」

〽その頃のOP達〽

OP「なあ、何でこんなにわさわさしてるんだ?」

OPがやつとノコノコに聞きました。

ノコ「しらねえのか?ハロウィンとか言うヤツで仮装してんだぜ?」

OP「……………まさかエンディング…」

ノコ「そついや、さつき…狼男の親子と魔女とドラキュラが裏口から行つてた様な…」

OPさん、気づいて下さい…ルイーダがヨッシーに言うと、二人は慌てて立った。

ルイ「あの僕、お菓子を用意しないといけないので…。」

ヨッシ「私はそのお手伝いに!」

OP「なら俺も行くよ。エンディングは多分、クツパ達と一緒に言ってるだろうし…」

三人は帰って行きました。

その後、皆は楽しいハロウィンを過ごしました。マリオも途中参加しました。

マリオ「俺も混ぜろよ」

OP「OK」

そして、その次の日。エンディングが帰ってきました。ヨッシーは既に帰っていました。

エン「たっだいま。」

OP「遅かったな。」

エン「いやそれが……」に軽く懷かれた。」

ルイ「あーいい子だね。」

エン「……次はどこに行こうか……。」

??「決まってるじゃないんだったら僕等の所に案内するよ。」

その声と共に、四人は妙な空間へと吸い込まれていった。

次回……謎の声の正体は！？そして、彼等の運命は！？……

3・攫った理由と空気の男（後書き）

マリオ「やっと出れたぜ!!」

ルイ「でも、まだまだいるんでしょう？」

エン「ああ、大丈夫だよ。」

OP「スマブラ系はまとめるんだっけ?？」

エン「うん。」

ルイ「……（怒る人いるだろうな……）で、ではお楽しみに……」

4・異空間から抜けた先は…（前書き）

マリオ「何でだ？久しぶりにでたのに散々な目に…」

エン「何でしょうねえ；」

ルイ「…僕、嫌な予感しかしない…。」

4・異空間から抜けた先は…

突如現れた異質な空間…。その中に吸い込まれた四人の運命は！？

〈1：エンディングの場合〉

バツシャン！ガボガボガボ…。ゲホツ！？

エン「ゲホゲホゲホ…。う、う…ここは…？？」

いきなり水面にダイブしたエンディングは、辺りを見回した。どうやら、風呂場に落っこちた様だ。

エン「あーあー…ビッショビショだ（呆笑）」

もはや呆れるしかないが、近くにドライヤーがあつたので乾かす事にした。

エン「皆は…どこに行ったんだ？」

エンディングは小さく呟き、乾いたら探索しよう…。と思った。

〈2：OPの場合〉

フカツ、という効果音が丁度良いくらいのベットのの上に、OPは落下了した。

OP「オブフツ…ん？フツカフカだなあ」でも寝てたら駄目だしな。」

OPは名残惜しそうに立ち上がった。そして、部屋を注意深く見て…

OP「よし」

部屋の外へと走り出た。誰もいない廊下は、黒かった。

OP「ここって…暗黒城？」

ま、そういう事ですなあ。

↓3：ルイージの場合↓

ルイージは比較的安全な場所で落ちた。

ルイ「うわっ…。ん？ここ…ソファの上…？？」

そして辺りを見回す。誰もいない。ルイージは急に不安になった。

ルイ「……………（お化けでないよね…？）」

変に不安になりながら、ルイージはおとなしく待っていた（何をだよ）。

↓4：マリオの場合↓

マリオはテラスに引っかかって、何とか下には落ちていなかった。

マリオ「アップね…」

上によじ登ったマリオは、視線を感じた。顔を上げると、一人の男がいた。

マリオ「！！お前は！Mr・L！！」

Ｌと呼ばれた男は、顔を上げた。ルイージとそっくりなＬ…ただ、色は彼よりも濃い色だった。

Ｌ「軽々しく名前を呼ぶな。」

イライラした様に呟くと、彼はそのままどこかへと歩いていった。

マリオ「やっぱアイツ…似てるな…。」

一人残されたマリオは呟くと、そのまま城の中へと入っていった。

～再びエンディングの場合～

エン「やっと乾いた」

??「よかったねえ。」

エン「うん」

おい、気づけよ。

エン「それにしても…何でデイメーン、手伝ってくれないのさ？」

デイメ「自分でさせた方がいい経験になるでしょ？」

デイメーンと呼ばれたこの男(?)…紫ベースの衣装を着ていて、顔には仮面をつけている。表情が読めない。

エン「でもさ、いきなり引つ張り込むのは無しだと思っただけど…」

デイメ「どこにも行くところ無いとか言ってたじゃん。」

ケンカしないで下さいよ？進まないのです。

デイメ「さて…会議室（ラスボス所）まで行く？」

エン「残り一人も紹介しないとね。」

もう紹介されてますが。

二人はお構い無しに、歩いていった。

（場所：暗黒城（会議室））

会議室に着いた二人は、ソファアにいたルイージとOPから軽くどやされた。

OP「遅いぞー（笑）」

ルイ「心配したんだからね…」

エン「ごめんよ…」

デイメーンは早速ルイージに悪戯しにっていますが。そこへMr・シがやってきた。

エン&ディメ「あ、エリリン！」

「ハモるな！！」

二人は正座させられてます。そこへマリオ登場。

マリオ「何やってんだよ」

ディメ&エン「正座中！」

「そこで次まで反省してろ。」

OP「なあ、次はどこ行く？」

エン「やっぱりマスハン達の所とか」

ディメ「僕等も付いていっていいかい？」

OP&エン「良いよー」

ルィ「（凄く不安だな）」

マリオ「……………（俺がきをつけねえとな）」

こうして二人は…次の話まで正座をさせられる事になってしまった…。

次回…いざ、マスハン達の世界へ！！～

4・異空間から抜けた先は…（後書き）

マリオ「おい、二人とも顔色悪いぞ？」

エン&デスメ「大丈夫……な訳あるか。」

OP「アハハ お前等面白いな」

エン「……………（もうアイディアでないや……）」

5 いざ、あの世界へ！！（前書き）

エン「…三日も正座させられてた…。」

ディメ「立てない…。」

マリオ「本当にこれ、終わるのかよ？」

5 いざ、あの世界へ！！

前回から二人増え、今の所6人で移動している。

エン「てかどうやって行くの？」

マリオ「大丈夫だって。ワープ装置あるから。」

6人はワープ装置に乗ってロビーらしき場所へ着いた。

マリオ「久しぶりに来たな…。」

ルイ「本当だねえ」

エン「本当」

エン以外「……」は？「……」

エン「あゝえつと…取材してくる…！」

マリオ「あ、逃げた…！」

五人はエンディングに置いて行かれた。

マリオ「…また出番なしか…。」

場所：一階廊下

エン「振り切った…。」

エンディングはのんびりと廊下を歩いていた。直線上に…ダンボールがある。

エン「…ダンボール…。よし…開けて見ましょう」

遠慮なしに開けたダンボールには、男が一人入っていた。

??「ん?…大佐、また後で連絡する。」

エン「スネークさんか…やっぱり。」

スネ「何の用があつて来た?」

エン「自己紹介をどうぞ!」

スネ「ああ…俺はソリッド・スネーク。この無限バンダナから何でも出るぞ!」

エン「例えば?」

スネ「ダンボールや銃…果てには手榴弾だな。」

エン「おゝおゝ…あ、マスター達は!?」

スネ「そつだな…終点あたりじゃないか?…三階から行けるぞ。」

エン「ありがとーございます。では!」

スネ「…行つたか。……大佐!」

スネークは通信を再開した。

〈場所：二階モニタールーム前〉

エン「…何か声が聞こえ…うわぁ!？」

エンディングの目の前には、銀の仮面をつけた小さな球体とピンクの球体があった。

??「君だ…れ？」

??「ここではあまり見かけないが…？」

エン「私はエンディング。二人も自己紹介どうぞ?」

??「僕、カービィ!吸い込んだ敵の能力をコピー出来るの」。

??「私はメタナイトだ。大王様をお守りしている。」

エン「成る程。…三階への階段つてどこです?」

カー「そっちだよ?」

エン「ありがとう。」

エンディングは二人と別れた。

〈場所：三階ワープ部屋〉

エンディングはやっと、ワープ部屋に来ていた。：青い閃光が見えた；

??「Hey!危ないぜ!」

エン「おう；」

出てきたのは真っ青なハリネズミだった。みんなお分かりだね；

エン「そっちも危ないよ；」

??「そうか…S o l l y ;」

エン「自己紹介どうぞ（笑）」

??「俺か？俺はソニック！素早いぜ」

エン「こっからか…。」

ソニ「何か言ったか？」

エン「いえいえ…。」

エンディングはソニックと別れ、終点へ向かう装置に乗った。

〈次回：終点の二人。〉

5 いざ、あの世界へ！！（後書き）

マリオ「…えらく最後は唐突だな？」

エン「時間がやばかった（笑）」

OP「授業中に書くなよ！」

6 ・任天堂の神！！（前書き）

エン「いよいよ彼等が！！！」

??「俺のキャラあんまし知らねえくせに。」

エン「すいません；」

6・任天堂の神！！

ワープ装置を抜けた先には…終点が見えた。いや、ホントに。

エン「そっぴゃココ、全く来た事ないなあ…。」

ぼやきながら進む。…白い巨大な何かがあった。手か？手袋か？

エン「お、マスハン。」

呟いて、そつと進んだ。足音を殺し、気配もなるべく消した。…元々、気配は薄いが。

エン「……（よし、近くまで来た）。」

どうやらマスハンこと、任天堂の神…マスターハンドはプログラムを直すのに熱中している様だ。

エン「……（セーのーだ）」

声を掛けようとした瞬間に、誰かに持ち上げられた。

??「マスター、コイツは誰だ？」

マス「ん？…何だ、Eか。」

エン「…久しぶり…。てかEって呼ばないで…」

言いながらも身を捻って、自分を持ち上げているモノを見た。もう

一つ手袋が…。

エン「誰！？」

??「俺か？俺はクレイジー。マスターの弟だ。」

エン「…本当！？」

マス「ああ。因みに彼が持つ力は、私とは正反対だよ。」

となると破壊の力が…。エンディングはある事を思い出し、二人に尋ねた。

エン「そう言えば…二人とも、カービィでは敵として出てなかったっけ？」

マス「出て…いたな。何で今更？」

エン「ゲーム中に会ったからだよ…叩き潰されたし。」

クレ「ハハハッ！ざまあねえな！」

エン「……………；（クレイジーの方を先に倒したって言ったら、怒るよなあ…）」

マス「クレイジー、そろそろおろしてやったらどうだ？」

クレ「へーい。」

…エンディングはどうやらつままれていたらしい。すぐに下ろされ

た。

エン「さて……次は何処に行こうか……」

マス「もうあの世界には行ったのか？」

クレ「は？……ああ、あそこな。」

エン「多分いつてないでしょうねえ……」

マス「なら、行ってくるといい。」

エン「マリオ達もいるけど……」

クレ「それなら俺等に任せとけよ。この世界に置いとくからよ。」

エン「了解です！」

エンディングは二人と別れた。マスターの呟きは誰にも聞こえなかった。

マス「……また暴走しないといいがな……」

〈場所：スマブラ競技場(?) 前〉

マリオ「あ、やっと来たな。」

エン「色々トラブルがあつてね……あ、マリオ達はココで……」

ルイ「そうなの？……ちょっと寂しいなあ……」

ディメ「僕がいるよ」

Ｌ「お前な」

エン「あらら」

二人は四人と別れた。そして、例の世界へと向かった。

OP「次は何処なんだ？」

エン「当ててみてよ」

次回…有名なネズミk…ギニャアアア！？

6 ・任天堂の神！！（後書き）

OP「何があつたー！？」

エン「電気…くら…た…」

??「次は言わないでね！」

7・さあ世界的に有名な彼等！……（前書き）

OP「おいおい・題名が・」

エン「自分でもよくわかりません・」

7・さあ世界的に有名な彼等!!!

前回、何故か痺れたエンディング。それでもOPと一緒に旅を続けていた。

OP「さうて…次はどこ行くの？」

エン「あそこだよ」

そこにあつたのは変な装置。エンディングがその上に乗ると、何とポケモンの姿になっていた。

OP「あれ！？エンディングか!？」

OPの目の前には、色違いのヨノワールがいた。人語を喋っている。

エン「これでOKです。」

OP「口調まで…」

エン「ほら、OPも早く乗ってください。」

せかされて乗ったOPの姿は、色違いのゲンガーになっていた。

OP「おお、変わったぜ!」

…なんで口調変わるのさ。

OP「…で、何で色違いなんだ？」

エン「今から行くのはポケダンと呼ばれる世界ですからねえ。」

OP「ああ、だからか。」

二人は手始めに、トレジャータウンへと向かった。

└場所：トレジャータウン・カクレオンの店前（何でとばしたかはスルーで！）┐

カクレオンの店の辺りまで来た二人は、見事にぶつか…りそうになったルカリオを透けてかわした。

ルカ（名前・??）「あ、ごめんなさい！」

エン「いえ、大丈夫ですよ。…そちらは？」

ルカ「大丈夫です…」

僅かに緊張している様だが、波動が違うのに気付いているらしい。OPが名乗った。

OP「…俺はOP。こっちはエンディングだ。お前は？」

リオル「僕はリュウって言います！」

エン「はじめまして、リュウさん。」

そして握手を交わしている所に、カメックスがやってきた（口調がゼニガメのまま…）。

カメ「お、リュウ！ここにいたのか。」

リュウ「うん。」

カメ「…その二人は…？」

かなり胡乱げな顔で見られた（特にエンディングは）。先ほど同じ挨拶をすると、

カメ「オイラか？オイラはベイ！よろしくな。」

二人はベイとも握手を交わした。エンディングがOPに耳打ちした。

エン「……（そろそろ行きましょうか？）」

OP「……（へーい）」

エン「さて…私達はそろそろ、ギルドに行きませんと。」

OP「そうだな。」

リュウ「今から？」

エン「はい。」

ベイ「なら、オイラ達と一緒に行くこうぜ。」

…こうして二人と一緒に行く事になった。

（場所：ギルド前）

ギルドの前…そこには、足跡を鑑定（？）する網（？）があった。
リュウが言った。

リュウ「ここに乘つて、足跡をしてください！」

まずはOPが乗った。

？？1「ポケモン発見！ポケモン発見！」

？？2「誰の足型？誰の足型？」

？？1「足型はゲンガー！足型はゲンガー！」

OP「おお…。」

？？2「その…もう一匹！そつちも乗れ！」

エン「…命令されるのは癪ですが…乗りましょう。」

そして乗った瞬間に、鑑定（？）が始まった。

？？1「ポケモン発見！ポケモン発見！」

？？2「誰の足型？誰の足型？」

？？1「足型は…えーつと…」

？？2「おいディグダ？どうした！？」

どうやら鑑定(?)していたのはディグダらしい。まだ唸っている。

ディグ「だ…だつてえ…足が無いんだもん！」

???2「足が無いだあ!?!…ん?前にもあつた様な…。」

考え込んでいる。そして、駆け上がってくる音。

???2「あ!お、お前は!!また性懲りも無くきやがつたな!!!」

…どうやらこの世界のヨノワールと勘違いしている様だ(本当は良
い奴なのに…)。

???2「オイコラ!何できやがつた!!」

???3「何をわめいてる!!」

…今度は鳥ポケモンがきた。音符の形の頭…ペラップか。

ペラ「何を騒いでるんだ!」

???2「だつてよ…またヨノワールの野郎が…」

ペラ「何だつて!?!…ん?何だ、人…いやポケ違いじゃないか。」

…良く色が違うつて分かったな。

ペラ「どうもドゴームが迷惑を…。」

ああ、あの煩いのはドゴームってのか。

ドゴ「本つつ当にすまねえ!!」

エン「いや、何も謝らなくても…」

ペラ「いやいや、けじめを付けさせなくては…」

何故か謝り合戦の様になっている；

ペラ「さて…お詫びにこの中を案内しましょう!」

流石ペラップ。良く頭が回るな(笑)

エン「お言葉に甘えて…行きましょう!」

OP「おう…ケケケ。」

そして二人は、ペラップについて行った。

次回…あれ?前回の間違ってる??…あゝあゝあゝえっと…プク
リン登場

7・さあ世界的に有名な彼等！！！（後書き）

OP「オイ！？最後までうした！？」

エン「錯乱しましたよ……」

8 プクリン親方とご対面（前書き）

OP「色んな意味で大丈夫か？」

エン「…テストダメかも知れません」

マリオ「勉強しろー！！！」

8・プクリン親方とご対面

さて…ギルドの中を探検だー（笑）

↓場所：ギルドの地下一階↓

今、エンディング達はギルドの中を案内されている。ペラップが羽で示した。

ペラ「ここにある掲示板で、お尋ねモノを捕まえたり…探しモノを見つれたりするんです。」

エン「ほう…（本当はゲームしてるから分かるんですが；）。」

そして、梯子を更に一つ降りた。

↓場所：ギルドの地下二階↓

ペラップが振り返り、再び羽で示した。

ペラ「そしてここが地下二階の…いわゆる生活の場、とてもいいますか…。」

そこには沢山のポケモン達が居た。まず最初にヒマワリのようなポケモンが反応した。

???「キャー…！！！！またヨノワールが来たのですのー！！？」

それを聞いてビーバーの様なポケモンも反応した。

???2「またでゲスカ!? ひーーーー命だけはーーーー!!!」

うん。面白い反応だなあ…。ペラップが怒った様に言った。

ペラ「お黙りっ!! 彼等はエンディングさんとOPさんだ。未来のヨノワールではない!!」

???1「そうなのですか?? 御免なさい…。ワタシはキマワリですわ!」

???2「ごめんなさいでゲス! あっしはビツパでゲス。」

その騒ぎを聞きつけたのか、ギルドの仲間達が集まって来た。

???3「あら、新人さん?」

エン「いいえ、ただプクリンさんに挨拶を、と。」

???3「そうなのですか…。ワタクシはチリーンです。宜しく願いますね。」

そして、一つの扉が開いた(表現がおかしいです;)。出てきたのはピンクの…

ペラ「親方様! 彼等が挨拶をと…。」

…コイツ等は私に恨みでもあるんですかね;
ナレーター

親方「彼等?... あ、君達だね」

エン「私はエンディングと言います。」

OP「俺はOPだ。」

親方「ボクはプクリン。宜しくね、トモダチ」

お、プクリンも違うつて分かってるんですねえ。

プク「で、君達は何処から来たの?」

エン「ここよりも遥かに遠い所... とでも言っておきます。」

分かりそうで分からない回答。皆は首を傾げている。... 質問に答え
ている内に、夜になってしまった。

チリ「あら、夜になってしまいましたね...。」

その時、ビッパのお腹が鳴った。続いて、リュウのも。

ペラ「さて... ご飯にするかい?」

全員「イエーイ」

チリ「お二人もいかがですか?」

エン「どうでしょうか。」

OP「甘えさせてもらうか。」

エン「そうですね…。」

ペラ「決まりですね。」

そして二人は、皆と一緒に食堂へと入っていった。

くその頃の…場所：あの装置がある場所く

ポケモンになる装置の前に、一つの影があつた。その人物は装置を見ていた。

??「…これは…。使用している、様ですぢや…。」

そして杖を振り上げると、炎を放った。装置に当たり、壊れてしまった。

??「これで、いいですぢや……………」。

そしてその影は箒に乗ると、飛び去っていった。

く戻って…場所：プクリンのギルド入り口く

エン「お見送りは良いですよ。」

と言ったにも関わらず、リュウとベイだけは見送りに来た。

リュウ「また、来て下さいね。」

ベイ「良い所だろ？」

OP「おう。」

エン「では…。」

そして二人は階段を降りて行った。その時のエンディングの表情は、強張っていた。

（場所：帰りの畦道）

OP「どうしたんだよ？そんなに急いで。」

エン「確かめなければいけません。…あぁっ！！」

エンディングの視線の先…装置は、見事に壊されていた。

OP「オイ、何が…ゲゲツ！？何だこりや！？」

エン「…やはり…壊されてしまったか…。」

OP「どういう事だよ！？」

エン「…今は一刻も早く、マスター達の所へ行かなくては！！」

言いながら、装置を念力で浮かせた。そのままワープ装置へと向かって行った。

OP「…一体、何が起きてんだよ…。」

OPもボヤキながら、エンディングの後について行った。

次回…壊された装置。果たして二人は人間に戻るのか!?

9・あれ、コイツ等スーパーマリオRPGの奴等じゃ…（前書き）

OP「オイ、題名はどういう事だよ!？」

エン「どうもなにも…そのまま（笑）」

マリオ「嫌な予感しかしねえよ。」

9・あれ、コイツ等スーパーマリオRPGの奴等じゃ…

前回の場所から、エンディング達は何とか戻ってきていた。

OP「ふう…やっと着い…ん？何かいるぜ？」

そこにいたのは、背が異様に高い、白っぽい人物だった。

エン「あれは…出ても大丈夫ですよ。」

そう言つて、エンディングは出て行った。その人物の目の前に。

エン「どうも、お久しぶりです。」

??「ああ、久しぶりだな。…その姿という事は、また壊されたのか。」

エン「どうもその様で…。」

??2「おーい、早く行くのニャ!！」

??「直ぐ行く!…また会おう。」

エン「ハイ。」

短い会話が終わった。OPが僅かに驚いた様に言った。

OP「さっきのって…まさか、カリバーか!？」

エン「そつですが？」

あつさりと言うなよ……何故、彼が人型なのか。それは……

OP「何で人型なんだよ。」

エン「私が彼等に人型を与えました。…彼の他にもいるでしょう？」

OP「まさか…ユミンパとかか!？」

エン「ご明答。」

との事。二人は移動速度を上げる為、上空の移動を開始した。

↓場所：ワープ装置を抜けた、ロビーらしき所↓

二人は、マスハンに装置を直してもらう為に、再びやって来た。

エン「さて、行きます……」

OP「まで、誰がいるぞ!？」

そこにいたのは、ルイージ達四人と…人の様な形をした、ポケモン。

エン「…仕方ありませんねえ…シートでも被っていきます?」

OP「しゃーなーな……」

二人はシートを被り、通り過ぎようとした。

マリオ「ちょっと待て：お前等誰だ！？」

予想通り、マリオに止められました；

エン「直ぐ私達を忘れるとは；」

マリオ「何だ、お前等かよ；」

OP「悪いかー；」

エン「あ、そうだ。彼にも自己紹介させないと；」

??「…私はミュウツー。エスパータイプでは最強と言われている。

」

エン「おや、それは違うと思いますよ？エスパーは他にもルギアと
かいるでしょう？」

ミュウ2「…サイコネシス！」

おや、ここでのミュウツーさんはどうやら怒りっぱい様で：放たれたサイコネシスは、エンディングに当たった瞬間に消えてしまった。

ミュウ2「な…！？」

エン「……………！！！！（しまった！！）」

エンディングさん、どうやら攻撃をされるとは思わなかったもよう；

ディメ「君等のシート取るよ」

いつの間にかディメーンからシートを取られました・姿があらわになり…

ルィ「ギャアアアア！お化けー！！！！」

ルイージの叫び声で騒然となりました；

「誰だお前等！！！！」

ミュ2「彼等はポケモンのゲンガーとヨノワールだ。」

マリオ「ポケモン！？」

マス「おい、どうしたんだ；」

余りの騒がしさに二人が出て来ました；；

マリオ「コイツ等が二人の名前を騙ったんだ！！」

クレ「ん？コイツ等が…。お前等ちょっとこっちこい！」

マス「待て！“宵の月を見る者よ”」

エン&OP「“汝は暁に吞まれたり”」

マス「“吞まれた者はそこで知る”」

エン&OP「“自らが何者か、何をすべきかを”」

マス「…彼等はどうかやら、本当のエンディングとOPの様だ。」

クレ「さっきの言葉は何だよ!？」

マス「彼等がもしもこの姿で訪れた時、本人かどうかを確かめる為の言葉さ。」

そして、マスハンは二人に向き直った。

マス「何があつた？」

エン「それがですね…例の装置が壊されまして…」

マス「またか…しかも今回は…OPまでも…」

OP「直せるか？」

マス「ああ。だが…一日はかかるぞ。」

エン「…………ここに泊まって良いですか？」

クレ「条件付きでな(笑)」

クレハンは奇妙な動きをしながら、含み笑いしている様な声で言った。

クレ「“皆と乱闘する”これだけさ(笑)勿論、メシ・風呂・部屋はあるぜ」

エンディングは少し考える素振りを見せた。ミユウツーは考えが読めている。

エン（考え）『泊まろう。そうしなければ、色々と面倒ですし…』。

そして、エンディングが口を開いた。…あれ、ヨノワールの口どいだ（笑）

エン「そうですねえ…。お言葉に甘えましょうか。」

すると、マリオが口を開いた。

マリオ「じゃあ早速、俺と乱闘しようぜ！」

エン「受けて立ちましょう。」

そうして、二人（＋）は乱闘をする事となった…。

次回…乱闘が開始する。

9・あれ、コイツ等スーパーマリオRPGの奴等じゃ…（後書き）

エン「乱闘ですねえ…容赦しませんよ？」

マリオ「やつぱ、口調が違うと何かなれないな〜」

OP「俺もだぜ（笑）」

ルイ「……（お化け怖いお化け怖い）」

デイメ「ルイルイ落ちて着いてよ〜…あれ、エリリン？？」

Ｌ「お、俺は怖くねえからな！！！」

デイメ「……；（震えながら言っても説得力ないよ〜；）」

10・乱闘開始!!!（前書き）

OP「手、大丈夫かよ？」

エン「大丈夫ですよ。…かじかんで動かないだけですから。」

OP「おい！」

10・乱闘開始!!!

エンディング達は、早速…乱闘を始める為に、コロシアムへと向かった。

〈場所：それぞれの控室〉

マリオ「にしても…戦った事無いんだよね…あの姿は。」

エン「皆さんそうですと思いますが？」

ルイ「ぎゃあああ!？」

…ルイージ…早く慣れてやって…エンディングが悲しそうだ…

マリオ「何でここにいるんだよ!？」

エン「いえ…ついさっき…壁抜け出来る事を発見しましてねえ…。」

…「流石、化けモノと言った所だな。」

エン「…Mr・Lさん…貴方は私が倒します。」

どうやら先程の言葉で闘志に火が付いた様です。

エン「…さて…始めましょうか？」

マリオ「いや、お前はあっちからだろ…。」

エン「そうでした。」

さあ……………試合開始です!!

エン「あれ、1VS3ですか……」

小さい事は気にせず、スタート!

「乱闘スタート!!!!」

エン「…何で一人……」

エンディングさん、まだ嘆いているもよう。

「こっちから行くぜ?」

Mr・Lはエルガンダーを呼びだした!エルガンダーがミサイルを撃ち出す!!

エンディングはミサイルを…避けたー!!!!!!マリオにダメージ!

マリオ「何で俺にダメージ!?!」

避けたミサイルが当たったからです。

エンディングのシャドーボール!マリオにダメージ!!

マリオ「何で俺ばかり……」

エン「直線上にいるからですよ……」

マリオの攻撃、ジャンプで踏みつけ！

しかしエンディングには透けて当たらなかった！

マリオ「せつけーーーー！！！！！！」

ルイージが（名前忘れたよ……正式な、ね；）必殺球を取った！

エン「！！！！しまった！」

エンディングは慌てて距離を取った！

ネガティブゾーン発動！！マリオとMr・Lは勝手に眠った！

L「眠気が……zzzz」

マリオ「またかよ……zzzz」

エンディングがMr・Lへと向けてシャドーボールを連発！

Mr・Lはなす術もなく場外へ！

マリオ（復活した）「なっ！？（あんなに威力あんなのかよ！？）」

エンディングが必殺球入手！！

ルイ「出るの早くない！？」

作者の都合です。……常闇の性発動！

ルイ「ぎゃあああああ!?!」

あー解説します……今、エンディングさんの周りには六つの……まさしく、眼が浮いてます。

そしてフィールドは……黒い炎で埋め尽くされてます。上の方の足場は無事です。

マリオ「う……動けねえ……!? そうか! あの眼のせいか!?!」

エン「ご名答。……何故ルイージさんは動けるんでしょうか??」

それも私から。^{ナレーター}それは……見た瞬間に目を逸らしたからでしょうね;

炎が消えた!?! マリオは……フラフラだ!?!!

マリオ「くそ……」

追いつちをかけるようにシャドーボールを放つが、ファイアボールにかき消された!

マリオはエンディングに急接近し、ポンプで流した!

エン「ちっ……!?!」

エンディングさんは何とか耐えきった様だ! そこへルイージの下キック!

しかし浮いているので意味が無かった! ルイージそのまま場外へ!

マリオ「？ルイージー……！よくもルイージを！」

エン「（いや、あれ……自爆なんですけど……）や、やっと本気を出す様ですね……！」

マリオさん、何やら勘違いされております。スマッシュボールをマリオが取った！

マリオ「？必殺球の正式名称出てる……！！！」

ツッコミは無視しましょう。マリオの最後の切り札、マリオファイナル炸裂……！！

エン「っ……！！！」

エンディングさん、炎は嫌いなようです。全弾命中だ……！！

エン「ぐ……ぐああああ……！！！」

エンディングさんはそのまま場外まで吹き飛ばされた……！！

終了……！乱闘終了……！！

勝者………マリオ……！！

（場所：それぞれの控室）

し「お前ひどくねえか……？」

エン「仕方ないじゃないですか。それに…私が倒すと言ったでしょう?」

マリオ「(怖えええ…;) まあ良いじゃないかそれに…そろそろメシだぜ」

四人はノンビリと食堂へと向かった。…おや、エンディングさんが振りかえりましたね。

エン「…先程の技は秘密ですよ。」

小さく笑って、歩んで行きました。

次回…食堂のご飯は…??

10・乱闘開始!!!（後書き）

OP「ボツコボコにされてんじゃねえか（笑）」

エン「仕方ないじゃないですか」

マリオ「次は誰が戦うんだろうな？」

11・食堂での食事（前書き）

OP「やっとメシだな」

エン「そう…です、ね…。」

マリオ「そついや…□どこだ？？」

11・食堂での食事

今回は…ああ、ご飯ですね。

リンク「できましたよ〜！」

彼等呼んだのは、リンク。彼もスマッシュブラザーズの一員で、緑色の服が特徴的。

リンク？「早く〜！」

…あれ、リンクがもう一人…あ、そうだ…こっちはトウーンの方ですね。区別の為、トリンにしましょ。

エン「やれやれ…子供は元気ですねえ〜」

OP「ホントだぜ。」

二人は笑いながら呟いてます。聴こえてなくて良かったですね。

ルイ「御免ね？今日の夕食の準備、任せちゃって…」

リンク「大丈夫ですよ。姫が手伝ってくれたので。」

成程〜ひゅーひゅーですか？

リンク「トライフォー・スラッシュ〜！」

え、ちょ、ギヤアアアア！？

エン「…ナレーターさん吹き飛びましたねえ…。」

OP「ホントだなケケッ。」

…復活!!まだまだいますからね!!!

OP「早っ。」

マリオ「そっいゃ、今日は何だ?」

リンク「今日は…(エンディングさんが大好きな)カレーですよ。」

エン「嬉しいですねえ。」

その場の全員「(どうやって食べるんだろ…)」

疑問に答えますか?

エン「嫌ですよ。」

OP「カレー持ってどっか行くなよ…。」

カー「それじゃーいただきますー…!!!」

全「…」いただきますー!!!「」「」

えーっと…マスター達まだ来てませんけど…ま、いつか;

マリオ「エンディングは何処だ?」

カー「メタナイトと一緒に食べてるよー。」

OP「流石、素顔見せないどうしだな（笑）」

ルイ「確かに仮面してたなあ…。」

デイメ「僕は見てみたいなあ。」

Ｌ「見れねえだろ；」

エンディングさんとメタナイトはのんびりとカレーを食べ終わります。

メタ「次は私とも闘ってもらうぞ。」

エン「良いでしょうとも。」

あーあーなんか協定みたいなの結んじゃったよ、この二人…あ、マスターだ。

マス「二人とも！修理が出来たぞ。」

OP「本当か！！」

エン「それは良かった。」

マリオ「折角だからここで戻って見せてくれよ。」

クレ「それ、良いな」

良くないでしょ普通・エンディングさん達は頷き合つと、一人ずつ装置に乗った。まずOPから。

OP「…やつと戻れたぜ；」

あらら、喋り方そのまま？…次はエンディングさんですね。

エン「…やつと戻れたー；；」

こんにちは仮面さん。

エン「誰が？」

…御免なさいもう言いません。ルイージが言った。

ルイ「凄いなあ。…でも誰が作ったの？」

エン＆OP「……………」

無言にならないで下さい。怖いので。マスターが笑いながら言った。

マス「ハハハ…まあ、良いじゃないか。…今日は泊まっていけないか？」

エン「…甘えます？」

OP「そだな。」

二人は泊まる事になる様です。…おやおや、少しだけマスターは心

配そつです。

マス「……………（大丈夫だろうか…今度こそ）」

さて…今回の事件は、夜に起こる事となる。

次回…夜の事件。

11・食堂での食事（後書き）

OP「次回予告短っ！！！！！」

エン「仕方ないでしょ。」

マリオ「事件って…マスターは何か知ってそうだな…。」

12・風呂&夜の事件（前書き）

OP「風呂って何だよ。」

エン「風呂は風呂でしょ。」

クレ「マスターが日本好きで日本風の風呂になってるぜ（笑）」

12・風呂&夜の事件

前回、やっと人間に戻れたエンディングさんとOPさん。風呂へに入る様子です。

エン「この風呂は普通ですかね…。」

OP「さあな。俺らん所とは違うかもな？」

二人は扉を開けた。

マリオ「よお！お前等も入るのか？」

OP「おう！！…何かあんまり変わって無いな…」

二人が入ったのは正に…日本の温泉でした（笑）

クレ「マスターが好きなんだよなーこういうの。」

OP「まさかクレイジーハンド!？」

エン「人型を与えました（笑）」

…またですか…見た目は茶髪で左目を隠した…ま、普通の人っぽいですね。因みに服は黒です。

クレ「普通って何だこのヤロー。」

御免なさい爆弾しまって下さい。…二人ものんびりつかります。

カー「メタナイトー…何で仮面外さないの？それにエンディングもー…。」

メタ&エン「素顔を見せぬのが騎士！！！」

OP「エンディングは違えだろ…」

ルイ「アハハハ…あ、後で二人の部屋を案内するね！」

OP&エン「イエイ」

そして数分間、ワイワイと過ごした…。

↓場所：二人の部屋までの廊下↓

ルイ「ここに案内されながら、二人はノンビリと部屋まで歩いて行っ
た。」

ルイ「…ここが二人の部屋だよ。さ、これがカギ！無くさないでね。」

OP「サンキュ」

二人は部屋へと入った。至って普通だ。

OP「もう寝ようぜー（笑）」

エン「はい。………ZZZ……。」

OP「?早っ!!!」

そして数分後…全員が寝静まり…事件が起こる。それは、とある場所から始まる。

〈場所：庭園（花）〉

ここは、花が沢山咲き誇る庭園。そこには、段ボールが大量に置かれてあった。

スネ「…ああ。心配ないさ。」

はい、予想通り…スネークさんが誰かと通信中。…おや、誰か来ましたね。

スネ「…オタコン、後で連絡する。」

オタコンでしたか。大佐だと思っていたのに。…足音は近付いて、スネークの段ボールは持ち上げられた。

スネ「…何だ、お前か…。」

持ち上げたのは、スネーク達が知っている筈の人物。だが…

“その人物”は指を鳴らした。その瞬間、スネークは四方から現れた闇に包まれた。

??「…パラノーマル・ゾーン。」

スネ「どういう事だ!おい!」

“その人物”は再び指を鳴らした。闇の爆発と共にスネークはフィギュアになってしまった。

“その人物”はフィギュアを一瞥すると、そのまま歩き去っていった。

ルイージに見えなくなるまで、スネーク・フィギュアはそのままだった。

次回：新たな犠牲者、そして“ある人物”の正体…。

12・風呂&夜の事件（後書き）

OP「怖ええええ！？何で！？誰だ！？」

エン「私にもサッパリ…」

マリオ「俺らが知ってて油断するヤツ…？まさか…？」

番外・何が欲しい？（前書き）

OP「は？」

エン「いえいえ、正式には：“クリスマスには何が欲しい？”ですよ。」

それをインタビュー見たいにするって事ですね（笑）

エン「そういう事です。…ナレーターもここにきましたね（笑）」

番外・何が欲しい？

…前回までの事件はさておき、今日は皆にインタビューを仕掛けます。

マリオ「…で、このチラシなのか？」

『全員に聞く、インタビュー　クリスマスは何が欲しい？』

そう言う事ですね。じゃ、バンバン行くので答えて下さい！！

マリオ「俺は1upキノコ五個セットだな。だって美味しいし。」

やっぱりマリオ〃キノコ！

ルイ「僕は料理の本だね。もっとレパートリーを増やしたいし！」

流石、スマブラの主夫（笑）

「俺は部品だ！機械のな！！」

…また作る気なんですネ…

デイメ「僕はねえ…やっぱり紅茶のセットだねえ」

デイメーンが紅茶好きつてのは作者の思いこみです（笑）

ピー「私はフライパンかしら。」

…ああ、また犠牲が増え」（吹き飛ばされました）。

クツパ「我輩は息子と過ごす時間だな。」

おお、子供思いだな（笑）

Jr.「僕はお父さんと遊ぶ時間！」

以心伝心ですね

クリ達クツパの部下「俺（僕）達は怪我したりした時の為の救急キツド！」

おお…凄いな、何か；

ん…もう一人いる気がするなあ…ま、紹介してないから出さないつもりみたいですがね（笑）

リン「私ですか！？今は…ニワトリですね。そうすれば卵を産んでくれますし。」

流石スマブラの主夫二号！

ゼルダ「私はゆっくりする時間が欲しいわね…。」

おお、ヒューヒュ…（再び吹き飛ばされた）。

トリン「僕は皆を守る力！」

良い事言う子だな！！

ガノ「…本だ。」

（出てないけど）怖い…；；；；

スネ「武器を磨くモノが欲しいな。」

あー何と無く想像はしましたよ；

ピカ「でんきだまが欲しいな！」

あー電撃の力を上げる為ですか…ってエンディングさん死んじやいますよ；

ミュ2「きあいだま」という技だ。」

悪タイプに勝つ為ですね（ミカルゲには効きませんが…）。

ソニ「シューズだ！直ぐにオジャンになるんだ。」

走るの早いすもんね；

カー「食べも」

それはあかんでしょ。サントさん涙目ですよ…；

メタ「仮面だ。無理なら部下に何かやってくれ。」

…仮面はエンディングさん達に頼んだ方が…って部下思いですね。

ヨッシ「僕もたべも」

だからサントさん泣くよ!?

キノP達&キノJ「姫様の安全を守る為の何かを!」

何かって何!?

マス「私は…平和が欲しいな。…もうあんな事が二度と起きない様な…。」

うん…それが一番ですよ;

クレ「俺は悪戯グッズだな(笑)」

流石だなあ…。

リュウ「僕は“はどうだん”を覚えたい!!」

頑張ってください;

ベイ「オイラは強い技!」

いや、ちゃんと名前いつて下さい;

ギルトメンバー「リンゴ等の食糧! (僕はセカイイチ!!)」

最後のは親方だな絶対。

カリ「…俺は錆止めとか…だな。」

元々、かなりデカイ剣ですもんねえ……

…おや、ここからは作者達ですか（笑）

OP「俺は3DSだ！！持ってねエし！」

ああ、だからたまに借りてるんですね；

エン「私は…Wiiです（笑）」

借りてしてますもんね（笑）

OP「ナレーターは？」

私は…寝る時間です。

エン「ダメじゃないですか；」

くオマケ：ある人物&兄貴（F）&まだ未紹介の友人達・ナレーター
ターツツコミなしです；

??「…サングラスだ。」

F「自由（即答でしたよ）。」

??「俺はPSPがええ！ホンマに欲しいんや！」

??「俺は現金ダ。」

??「俺は…怖がらなくなるスキル…。」

??「俺は怖いDVD（笑）」

??「私は料理をもつと美味しく作りたいです。」

…多種多様でしたね；

次回…本篇に戻りますよ（笑）

番外・何が欲しい？（後書き）

OP「こうして見ると…色々違うな（笑）」

エン「そうですねえ…。」

マリオ「最後の五人は？」

エン「まだ紹介していない友人達ですよ」

13・襲撃者とは？そして神までも？（前書き）

OP「お前：タイトル考えんの面倒になってきたんじゃ…」

エン「大丈夫ですよ（笑）今日はちゃっちゃんと終わらせたいんで。」

出てない全員「……オイコラ！！！！」

13・襲撃者とは？そして神までも？

前回…いや、前々回…不審人物が侵入していた。皆はルイージに叩き起こされた…。

マリオ「…で、何で起こされたんだ？」

ルイ「それが…スネークがフィギュアになってて…」

マス「…早く復活させる。」

…ん？マスターがここにいるとは…ルイージ叩き起こしたな！？おっと、スネークは復活！

スネ「…ここは…お、皆いたのか！」

??「スネーク、一体何があつたんだ？」

聞いたのは、キツネだ。二足歩行している。…あ、スイマセン…彼はフォックス。スターフォックスを率いる優秀なパイロット（？）です。

スネ「…ああ、俺にも信じがたいんだが…」

スネークは一瞬、間をおいた後…“ある人物”を語った。

スネ「少し雰囲気違っていたが…あれは間違いなく、エンディングだ。」

それを聞いた瞬間、皆の表情は固まった。ある人物を除いて…。

マス「…やはりか。」

マリオ「やはりって…どういう事だ!？」

マス「それは…」

OP「なあ、なんの話してんだ？」

お、エアーブレイク…スミマセンスミマセン!!どうやら今、起きた様です。

フォ「それが…エンディングってのが裏切ったとか何とか…」

OPの表情が僅かに変わった。そして、マスターにいった。

OP「…それ俺から話すわ。」

そして、重い口を開いた。

OP「エンディングは…普段の性格以外に、二つほど違う人格を持つてんだ。今の時はEDって名乗ってるよ。」

ピカ「それって…二重人格って事？」

ピチュ「にじゅうじんかくって何？」

あれ、何気にピチューが初登場してませんか？ピチューはピカチュウの進化前です

ミュ2「二重人格…つまりは…“私”は“私”だろう？だが“私”の中に違う誰かがいる…という所だ。」

ミュウツーさんもう少し分かり易く話して下さい。でも皆分かった様です……

マリオ「…どうすれば止めら」

ピリリリリリ！ピリリリリリリ！

マス「…私だ。」

クレ「マスター！大変だ！エンディングの奴が反乱起こしやがった！！」

マス「！！直ぐに行く！それまで耐えろ！」

マスターは通信を切った。そして、その場の全員に言った。

マス「…これは緊急指令だ！エンディング…いや、EDを見つけ次第、直ちに捕縛！出来るだけ傷付けるな！」

ピカ「でも…襲われたら…？」

マス「…やむを得まい…。」

全員が解散する直前、スネークが一つだけ言った。

スネ「皆、聞いてくれ。…“彼”が指を鳴らす素振りをしたら、く

れぐれも気を付ける。」

ピチュ「何で……??」

スネ「一撃で……フィギュア化する。」

その場の空気が……張り詰めた。

マス「……それは無線で追々話そう。皆！気を付けるよ！」

そして全員、それぞれの場所へと散って行った。マスターとマリオはクレイジーの所へと向かって行った。

次回……EDの目的。

13・襲撃者とは？そして神までも？？（後書き）

ED「…やっと名前が出たか…。」

OP「そついや、前回の…グラスンってお前か？」

ED「…昼間は眩し過ぎるんだ。」

14・EDとクレイジーの闘い（前書き）

ED「…手がかじかんでるだあ？気合で書け！」

OP「誰と話してるんだ？」

ED「作者だ！…！」

14・EDとクレイジーの闘い

OPから話を聞いた。スネークの証言もあった。それでも信じられない。何故、アイツが　　？

前方から、戦闘の音がした。時折、地面が揺れる程の轟音がする。急がなければ。

だが、辿り着く寸前…音が止んだ。マリオとマスターは速度を上げた。

マス「クレイジー！無事か！？」

二人が止まりつつ聞くと、そこには

ED「…何だ、もう来たのか。」

エンディング…では無くEDと、睨みつけているクレイジーであった。

クレ「マスター！コイツやばいぞ！」

ED「やばい…ね。」

EDは肩を竦める動作をした。

クレ「エンディングお前…舐めてんのか！？」

マス「…クレイジー、アイツは…」

マスターが言いかけた所で、EDが口を開いた。

ED「…いつもこいつもエンディングエンディングって…」

言いながら、片手を眼の前まで持ち上げた。

ED「俺はEDだ！！アイツと一緒にするんじゃない！！」

指を、鳴らした。その瞬間、マスターが素早く動いた。

光の空間を作り出し、闇の空間と相殺させた。EDは舌打ちし、手を下した。

ED「…んだよ…。」

ブツブツ言わないで下さい；

クレ「マスター！こういう事なんだよ！アイツEDとか何とか…」

マス「それは……」

マリオ「マスター！」

マスターが見た時、既にマリオとEDの背中小さくなっていた。

マス「マリオ！」

マリオ「心配するな！居場所を追々伝える！」

マス「深追いはするなよ！」

マリオ「ああ！」

その言葉を最後に、二人の姿は視界から消えた。

クレ「マスター……アイツは何もんなんだ？」

マス「……彼は……エンディングの負の心の集まり……とでも言っのかもな……。」

次回……EDの行方は？

14・EDとクレイジーの闘い（後書き）

ED「…最後の言葉はある意味、正解だな。」

OP「そうなのか？」

マリオ「口悪いだけだろ。」

ED「……………パラノーマ」

OP「そ、それではまたー！！！！」

15・EDとマリオの追走劇（前書き）

OP「確かにそうかも知れどよ……」

エン「アホな事件が起こるかも知れません（笑）」

ED「……（いつか本気で乗っ取ってやる）」

15・EDとマリオの追走劇

マリオは前回から、EDをずっと追いかけていた。今は螺旋階段を上っている。

マリオ「アイツ…変な上り方しやがって……！！！！！」

マリオの言う通り、EDは犬の様に階段を駆け上っていた。

彼曰く、普通に上るよりも上り易い…だとか。

唐突に階段が終わった。目の前には（湖レベルの）広い池が広がっていた。

マリオ「広いな……………」

呟いたマリオの目の端に、逃げるEDの背中が映った。

マリオ「あ！！待て！！！！！」

ED「待てと言って待つ奴が居るか！！！！」

言うとおりである。EDが突然立ち止った。

マリオ「え、何で…て止まれねエ！？」

スピードが付いていたマリオは簡単には止まれず……EDもろとも池に落下した。

マリオ「冷てえ！！！！」

ED「何で止まらなかったんだ！？」

マリオ「スピード出てんだから止まれる訳ねえだろ！！」

ハイハイ二人とも、喧嘩はそこまでにして下さい。茫然と見てるのがいるから。

??「二人とも…何をしてるんだ??」

彼はエインシャント卿。いわゆるロボット達をまとめる人(?)です
ね。

喋り方が違う?そりゃ…亜空事件の時のままですもん。

マリオ「…通信、聞いて無いのか?」

卿「…それが部屋に忘れていた様で…。」

オイ、何で忘れるんだよ。…マリオの心の声は聞こえません。

卿「えっと…エンディングさん…ですか??」

マリオ「…なんつーか…えっと…二重人格って分かるか?」

卿「分かりますよ。」

マリオ「それなら早いな。コイツはもう一つの人格の方で…」

…あれ、やけに大人しいですね？

ED「……………（まさか池に落ちるなんて…初めてだ）」

ああ、茫然としてたのね。

卿「…成程。それで捕まえようとして…池に落ちたと。」

マリオ「改めて言わないでくれよ。」

…やっぱり卿…好きだなあ…BY作者

卿「お二人とも…風呂に入った方が良いんじゃないですか？」

マリオ「…そうするか…。お前はどうするんだ？」

マリオが茫然としているEDに声をかけた。ユツクリとマリオを見て

ED「…入るさ。」

と答えた。二人は床をビツショビショにしながら、風呂へと戻っていった。

卿「…私が拭くんですかね……………」

卿…御免なさい……………

次回……………ってあれ、何でこんな展開?????

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9706x/>

作者&友人...そして例のキャラ達の紹介

2012年1月14日15時53分発行